

2022年 10月 30日 《宗教改革記念日礼拝》

主 日 礼 拝

司 会 ②石井 秀人兄
奏 楽
祈 祷 ②寺澤 政枝姉
賛 美 讃美歌267番 ～気づかなかった～
パウロの祈り②

聖書朗読 エレミヤ書29章10～14節
特別賛美 大和カルバリー聖歌隊&アンサンブル

メッセージ 「神様の愛に感謝する」
石井 潤 牧師

献 金 聖歌402番 ～栄光から栄光へと～
祝 祷
お知らせ 〔司会者〕
賛 美 ～主を待ち望む者は～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆
《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを感謝致します！今週も主の守りと助けをお祈り致します！

☆今週の祈り会：○早天祈祷会：明朝6時～。 ◎木曜祈祷会：①10時半～、
②夜7時半（大和祈祷会ライブ映像） ○準備祈祷会：土曜夜8時～。

★来週の日曜礼拝では子供祝福式が行われます。〈司会：石井兄／祈り：白川兄〉

☆一年に一回聖書を完読できる！Bible Reading Plan〔10/30－11/6〕

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	エレミヤ 29-30	31	32-33	34-35	36-37	38-40	41-43	44-46
新約	2 テモテ 2	3	4	テトス 1	2-3	ピレモン	ヘブル 1	2
チェック	〇〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

「神様の愛に感謝する」

～神様の希望の約束は決して変わらない～

「次に記すのは、ネブカドネツァルがエルサレムからバビロンへ捕囚として移した、生き残っている長老たち、祭司たち、預言者たち、およびすべての民に、預言者エレミヤがエルサレムから書き送った手紙の言葉である。…。『イスラエルの神、万軍の主は、私がエルサレムからバビロンへ捕囚として送ったすべての者に、こう言われる。…。私が、あなたがたを捕囚として送った町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があつてこそ、あなたがたにも平安があるのだから。』」エレミヤ書29章1、4、7節〔協会訳〕

この御言葉の後に、あの有名な回復の御言葉である、エレミヤ書29章11節が登場します。エレミヤ書の前半、この29章の回復の御言葉が登場するまでの状況は、読んでいてもひたすらに暗く、辛い状況が描かれています。預言者の仕事は、神様の御言葉を国民たちに伝えるという大切な仕事ですが、その内容が、良い事ではなく、裁きの預言でしたから、エレミヤは多くの迫害に遭って、命だけは守られますが、それ以外は本当に苦しい状況に置かれます。「涙の預言者」という名前が彼の代名詞のように表現されますが、まさに、日々涙を流し続けた預言者だったことでしょう。しかも、彼の生きている間には陽の目を見ることはなく、希望の約束を握りしめながら、その事実を見ることなく、その生涯を終える人物です。

しかし、彼が語ったのは、裁きの言葉ばかりではなく、救いの言葉を語ります。しかも、未来に対するものばかりではなく、故国を完全に滅ぼされ、帰る場所もなくなった国民たちに、“囚人のようにして、縛られて、捕らえ移された敵国で70年という長きに渡って過ごさなければならぬ屈辱の中にあっても、平安に過ごすことができるのだ！”と語ります。自分たちを滅ぼした嫌な、敵国の町のために“平安を祈れ！”と語ります。

私たちはイエス様によって救われて、神の子とされました。また、天国人とされました。しかし、未だに、救われる前と同様のこの世界に存在しています。何も違った部分を感じられませんが、状況や環境は変わりませんが、私たちの立場が変わりました。そして、その使命、役目も変わりました。今までは、この世の、人間の良いと思える考えに従って生きていましたが、今度は、天国の価値観、神様の価値観、聖書の価値観に従って生きようになりました。ですから、私たちの考え方が変わったのですから、生き方、行動の仕方も必然的に変わらなければならぬのです。もし、未だに今までの考え方、生き方をしていたとするなら、神の子として変えられた私たちにとっては苦痛以外の何ものでもない状況でしょう。ですから、私たちはこの世の考え方でなく、神様の価値観で生きたいと願います。そして、嫌だなあ、と思える状況に対しても神様の平安と祝福がありますようにと祈ることができるのです。なぜなら、神様によって与えられた希望の世界は絶対に変わらずに、豊かに与えられるからです！